

いとご増刊

ばっけ通信



発行人 社団法人 日本自閉症協会 編集人 宮城県自閉症協会
〒984-0816 宮城県仙台市若林区河原町2丁目2-3 南材ホーム内
宮城県自閉症協会・直通電話 080-3328-3802
✉ miyagiken.jiheisyokyokai@softbank.ne.jp



ご挨拶

宮城県自閉症協会 会長 目黒 久美子

猛暑が続きます。
みなさんはどのような夏をお過ごしでしょうか。

震災からもうすぐ半年が経とうとしています。 あの日には雪が降っていましたね。
震災から地続きの今日は猛暑、なんだか夢を見ているようです。 毎日、生活するだけで精一杯だった気がします。

この間、全国の自閉症協会からお見舞いをいただきましたことを報告致します。 情けが身に沁みるとは、このことであります。

また「ばっけ」をお届けできるようになって、うれしい限りです。 役員もみんな元気です、力強いです。

しかし仙台市内の様々な会場は、震災の被害やボランティアの拠点になっていたり、まだ通常の使用ができるまで、時間がかかりそうです。

さて、全国の話です。

もうご存じとは思いますが、会長の石井哲夫さんがお辞めになり、山崎晃資さんが新会長に就任されました。山崎さんはお医者さんです。

今年から2年間、宮城県が回り番で日本自閉症協会の東北ブロック理事になりました。

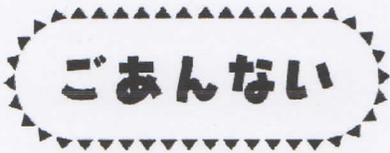
また、全国大会は北海道の次は東北での（宮城県以外）開催になりそうです。

協会は今回の震災を受けて、新たに災害についてのハンドブックの作成をしたい考えのようです。

その折にはぜひ東北3県の意見を取り入れたいとのことでした。

みなさん、ご協力のほど、よろしくお願いします。

力が弱いようでも、私たちにしかできないことが、結構あるのです。
少しずつ、少しずつ、こどもたちのために、私たちのできることをして、生きましょう。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

～宮城県自閉症協会主催～

相談事業(お茶しませんか)

会 場 仙台福祉プラザ 第3研修室

日 時 10時～11時45分

第1回 7月12日(火) 「震災について」

第2回 9月15日(木) ゲスト:ひかり苑施設長 米倉尚美さん

第3回 10月13日(木) ゲスト:仙台市教育委員会 赤間宏さん

第4回 11月15日(火) ゲスト:幼児期応援団 松岡幸枝さん

今年度は茶話会がグレードUP!

各回アドバイザーを呼び相談事業を行っていきます。

たくさんの方のご参加をお待ちしております。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



会員さんより

東日本大震災を体験して

亘理町 高館 幸子

地震が来た時、二階に居た私は階下の母の元へ急ぎました。

強い揺れに足元がふらつき、やっと階段を下りてからは母と二人恐怖に震えて居ました。大きく長い、揺れ度は二度、三度と続きやっと揺れが治まり外に出て見ると不気味な静寂に辺りは包まれていました。

ほどなく“大津波警報避難指示”がでました。

「作業所に通う息子は大丈夫だろうか？」電話が繋がらない状況に、とにかく迎えに行こうと、足が悪く「待っている」と渋る母を無理やり車に乗せ何の身支度も準備もせず高台にある作業所に向かいました。結果的にはその行動で私と母は津波に巻き込まれずに済んだのですが、息子を連れて避難所に向かうつもりでいた私は「此処に居た方が安心と」皆に言われ落ち着く迄留まる事にしました。

私の住む亘理町は何度となく大きな地震みまわれても津波の被害を受けた事はありませした。何より海から二キロ以上離れた我が家は絶対大丈夫と思いながら海の方を見ていると松林を超え白いしぶきを上げながら凄い勢いで津波が押し寄せて来るのが見えました。まさかその津波が9メートルを超える高さだったとは・・・

時間が大分過ぎ家の事が心配で戻ろうとしましたが、津波で途中からは通行止め避難所にも行けず車で夜を明かすしかなくなりました。

食物を買いにコンビニに行っても大勢の人が殺到し、やっと買えたのはお菓子が少し、雪が降り出し冷えてきても毛布もなくガソリンも十分になく、何の準備もせず来たことを後悔しました。そんな状況の中、主人と娘が私たちを探して迎えに来てくれた時は本当に嬉しくて、家族って本当に有難いと心から思いました。道路の至る箇所が陥没し隆起した暗い夜道を探るように車を走らせ、娘夫婦の家に着いた時は、ほっとしながらも不安で眠れませんでした。

翌朝、居てもたっても居られず我が家に向かいました。家から一キロ程先からまだ膝迄までの海水がひかず残っている道路を感覚がなくなる程冷たい水を掻きわけながら我が家に辿りつき、その惨状を目の当たりにし言葉にならない程のショックを受け、初めて体験した津波の破壊力と脅威を見せつけられた気がしました。それでも家族が無事だったことは何よりの救いでした。

何も考えられず生活することだけに追われる毎日が続きました。

でも現実には容赦ないものです。

浸水した家の事、待機中の息子の事、体調を崩した母の事いろいろな問題をどうするか・・・

一ヶ月を過ぎて何時までも娘夫婦の家に世話になるのもどうかと避難所を申し込もうとしましたが途中からだあまり歓迎されません。何より自閉症の息子と足が不自由な高齢の母にはトイレを含む様々な問題に避難所生活は困難です。仮設を申し込んでも入居は何時になるか分からず弱い人の立場にたった細やかな対応と支援が必要だと思いました。民間のアパートでも同じ支援が受けられると知ったのはずっと後からで情報発信のあり方を見直して欲しいものです。

先の事を考えて落ち込みそうになった時勇気づけられたのは家族、友達、ご近所の方々でした。特に今回何より有難かったのはボランティアの皆さんの力でした。がれきの撤去に始まり床下、排水路の汚泥の掻きだし、震災ゴミの片づけ家の掃除など献身的な働きに感謝してもしきれない程です。帰る時には「お手伝いさせて頂きありがとうございます」と逆に感謝され励まされ皆さんの温かさに涙がでました。

正直私たち家族だけでは本当に大変だったと思います。

震災から5ヶ月、家の修理を終え我が家に戻ってきましたが何軒もあった家々は無くなり海まで続く荒れ野は、がれきとゴミが散乱し少しだけ残った松林があの日津波を思いださせます。

今回の津波でご両親共亡くされた方が息子の通う作業所にいます。特にお母様は息子さんを迎えに出て津波に流されたと聞き心が痛みます。我が家の息子も言葉に出来なくても何か感じているようでまだ頻繁に起きる余震への反応は今までになく敏感です。私の友人も今回の津波で犠牲になり心癒えぬ日々が続いています。それでも今回の震災で家族の大切さや人との繋がりの大切さ当たり前の生活がどれほど貴重なものか改めて気付かされました。

町が復興するまで何年かかるか分かりませんが今回の事を決して忘れずに今後の生活に生かしていきたいと思えます。

最後に義援金を寄せて下さいました全国の自閉症協会のご父兄のみな様に心から御礼と感謝を申し上げます。



♪当事者の方からお便りをいただきました♪

これからもどんどん発信していただけるそうです。



初めまして、渡邊 美穂と申します。

私は、「自閉症の世界」と「定型の人たち」との懸け橋になればいいかなと小学生のころからずっと考えていました。しかし、この何年かはそのことを実行することも少なく、今年にいたっては全く実行していませんでした。しかし、お世話になった先生の死で、こんなことではいけないと思いました。

母が原稿を作っているのを見、私も参加させていただきたいと思い、今回のお願いになりました。

私一人の感じ方や見方にはなるとは思いますが、少しでも私たちの感じ方などを、一般の方や、支援者の方、または一番近くにいる保護者の方に知ってもらえたらいいかなと思います。

よろしくお願いします。



活動報告

宮城県自閉症協会 総会

佐藤由美子

宮城県自閉症協会の今年度の総会を6月8日（水）仙台市福祉プラザに於いて開催し、無事終了しました。例年ですと5月に行なっていた総会&研修会ですが、今回は、あの震災の後ということで会場をおさえることもままならず、6月にズレ込みました。

震災後でしたので、総会には多くの会員の皆さんとお会いできればいいな、と思っておりました。

また、例年総会後には講師をお招きして研修会を開催していましたが、今年度は出席者の皆さんと震災について話をしよう、と懇談会（茶話会）をセッティングしました。

総会には、18名の出席者、75通の委任状が提出されており、報告及び協議事項がスムーズに承認されました。

総会後の懇談会では、出席者から自己紹介と3・11あの日あの時、その後・・・を話して頂きました。多くは仙台ですが、北は気仙沼、南は亶理の会員の方々からお話を伺う事が出来、有意義な時間となりました。出席者の皆さんありがとうございました！



第一回 相談事業（お茶しませんか）

佐藤 恭子

去る7月12日（火）仙台福祉プラザに於いて第一回目の相談事業（お茶しませんか）が開かれました。

6月に行われた総会後の茶話会にて、会員の皆様からは震災の話が尽きず、このような場がもっと必要では？と今回企画をしたわけですが、震災から4ヶ月が経ち、皆様の関心は戻りつつある日々の暮らしの悩みへと変わっていったようでした。

震災の影響で慣れ親しんだ沿岸部の土地を離れ、新しい土地での生活。なかなかリズムをつかめず、子供のことを相談する人もいない…このような方も多いのではないのでしょうか。

そのような方のためにもこれからの相談事業を大いに活用していただければ幸いです。

今回は会員ではない方にもご参加いただきました。大変嬉しいことです♥

「啓発デー」シンポジウムに参加して

柴田 和子

6月18日（土）東京の全国社会福祉協議会・灘尾ホールにて行われた、世界自閉症啓発デー2011. シンポジウム「災害と自閉症～共に支え合い、共に生きる～」の第一部「被災地からの報告」の報告者として参加してきました。

急きょ、ピンチヒッターとしての参加となったので宮城県の協会の様子や我が子の震災当日の様子などを話すので精一杯でしたが、13分という持ち時間では被災地の思いが十分に伝わらなかったのではないかと思います。（詳しくはいとしご No129 をお読み下さい）

被災地4県（岩手、福島、茨城、宮城）、それぞれ違いはあっても、自閉症をもつ人たちの困難さ、避難生活の大変さなどは、共通するものがあります。これをまとめていくことで、今後の不安が少しでも解消されればいいなと思いました。

この一回で終わりにするのではなく、これからが大事なのだと思います。そのためには保護者だけではなく、いろいろな方たちと連携をとり、よりよい組織作りをしていくことが大切なのではないかと改めて感じました。当日は「被災地からの報告」「支援者からの報告」「これからの課題」など一日中盛りだくさんの内容で時間が足りないくらいでした。その中で、仙台の「おお宙ストリングス」の演奏があり、会場がなごみ、癒されました。一生懸命演奏していた子どもたちの姿はとても輝いていましたヨ！ お疲れ様でした。

「なんざい交流会」に寄せて

梅川 敬子

恒例の「なんざい交流会」は去る7月23日（土）、南材コミュニティセンターで「復興～今こそ力を合わせて～」のサブタイトルを掲げて賑やかに開催されました。天候にも恵まれ大勢の方が訪れました。

バザーでは提供品が山のように集まり、破格の安さで次々とお買い上げ頂き、会計は大忙しで嬉しい悲鳴を上げた程でした。

また利用者の作品も売れ、外では缶つぶし体験や水ヨーヨー遊びで子ども達が楽しそうでした。こうして見ていると南材ホームも地域の一員として心を寄せて頂いている感がして嬉しい限りです。

サブタイトルに恥ずかしくなく、地域の皆様、職員と保護者の方々に支えられて今年は東日本大震災への義援金もたくさん集まり、仙台市災害対策本部へお届け出来ました。

多くの皆様に感謝いたします。

震災に合われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、震災の影響で市内の会場が使用できず、延期となっておりました総会が7月16日土曜日に無事終わりましたことを皆様にご報告申し上げます。

今年度の執行部は、シエルの会の中嶋廉さんが代表を務めることとなり、LD児者親の会「ぼこあぼこ」の後藤幸子さんとNPO法人グループ「ゆう」の中村祥子さんが副代表を務めることに決まりました。引き続き自閉症協会も参加いたしておりますので、今年度もご協力お願いいたします。

今年度の主な行事としては2月に情報交換会を福祉プラザで予定しております。詳しい内容が決まり次第、皆様にご連絡させていただきます。

杜のオババの独り言

ライフラインは回復したものの。「節電、節電」と叫ばれて汗っかきの彼はイラつき気味で出勤している。今朝もジリジリ思いやられる。

そんな時、ギョッ!!

この暑いのに、横断歩道の途中でチュッ!!をしている若いカップルがいた。

「何だ、こんな時に。朝っぱらから節制がない」忌々しげに睨みつけて通り過ぎた。

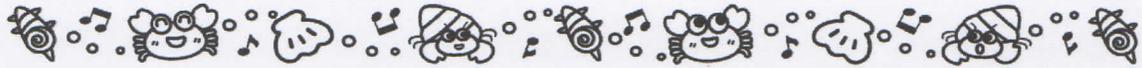
その時、後ろから同年輩らしい男性が彼に『ずいぶん熱心に見ていましたね』と捨て台詞を残して追い向いて言った。ギクッ!!ドキッ!!『お、俺は、そんなに熱心に見てなんかいないぞー』と叫ぼうとしたが、男性は人ごみにまぎれて遠く見えなくなってしまった。彼は、その日一日気分がさえないかったという。それは、そうだなあ……。

(「おじさん図鑑」より)

☼ 怖いもの 地震、原発 津波デマ

☼ あ、三十路^{みそじ} 年齢^{とし}などいらぬ 自閉^この娘

震災の影響で体育館が使えず活動休止中のビーバークラブでしたが、ようやく体育館が復旧！10月から活動再開です！！



*ビーバークラブとは？

学生ボランティアさん達に手伝って頂き、みんなで一緒に楽しく体操や大縄跳び・ボール遊びなどを親子で活動している体操クラブです。

普段運動不足のママたちも一緒に身体を動かしてみませんか？

他にも季節ごとに芋煮会や運動会・合宿など楽しい企画も考えています♪



- ◎活動日 毎週水曜日
- ◎時 間 午後 3 時 45 分～4 時 45 分
- ◎場 所 仙台駅東口 パルシティ 6 階 体育館 (変更の場合も有ります)
- ◎連絡先 代表 天間 TEL/fax 022-291-7258

*電話連絡の上、見学にいらして下さい！！会員募集中です！！

事務局より

賛助会員にご協力
ください！

口座番号 (郵便振替) 02200-2-8604
 加入者名 宮城県自閉症協会
 年会費 《正会員》 5,000 円
 《賛助会員》 4,000 円



宮城県自閉症協会ブログ

<http://blog.canpan.info/miyagi/>

(PC) address : m_autism@yahoo.co.jp

〒984-0816 宮城県仙台市若林区河原町 2 丁目 2-3 南材ホーム内

宮城県自閉症協会

協会直通電話 080-3328-3802

✉ miyagiken.jiheisyokukai@softbank.ne.jp

書籍のご紹介



*高橋 みかわ 著 (宮城県自閉症協会 会員)



【 大震災 自閉っご家族のサバイバル 】

避難生活の中で、自閉っごが抱える「困難」にどう対応したか、周りの理解を得るのにどう工夫したか、知恵や配慮や手立てを紹介する本ができました。

(ぶどう社 1680 円税込)



【 重い自閉症のサポートブック 】

この本では、常同行動、かんしゃく、パニック、笑い、自閉傾向サインなどについてのとらえ方やサポート方法、そして、トイレや歯磨き、コミュニケーションなど日々の生活に密着したサポート方法を、「サポートブック」を通して紹介されています。

(ぶどう社 1680 円税込)

*デイブ・エンジェル 著 / 関口 里華 訳



【 『アスペルガー症候群 子育てハンドブック』～お母さんたちからのエール～ 】

アスペルガー症候群をもつお子様一人一人にも個性があり、マニュアル通りでは上手く行かないこともあるのではないのでしょうか。

本書では、アスペルガー症候群の子供もつ母親達の生の声を集め、どんな状況や問題をどう解決したかという事例を掲載されています。

*小児科医・東條 恵 (新潟県はまぐみ小児療育センター所長)



【 子育て 親育ち とどけ! 親と子への応援歌 】

子育て中の、躓きや戸惑いを、喜びに変える1冊。

現役小児科医が医師として、また3児の父としての経験を生かし、子育て親育ちのポイントを分かりやすく解説。



【 知っておきたい 発達障がい キーワード 】

複雑で理解されにくい発達障がい児の諸状況を、キーワードごとに専門医が解説を加えた用語集。一層の支援環境作りのための1冊。

* Lobin,H 著



【 無限振り子 精神科医となった自閉症者の声なき叫び 】

当事者が語る“理解されない”自閉症者の苦悩

精神科医であり「受動型」の自閉症者である著者が、30代にして診断を受け

0歳から生き直し始めるまでの自らの経験を、分析的視点を交えて綴った貴重な記録。